

避難情報について

小中学校や公民館に行くことだけが避難ではありません。「避難」とは「難」を「避」けること。下の4つの行動があります。

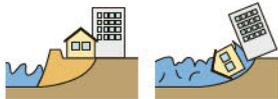


「3つの条件」が確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です。

①家屋倒壊等反乱想定区域に入っていない (入っていると...)

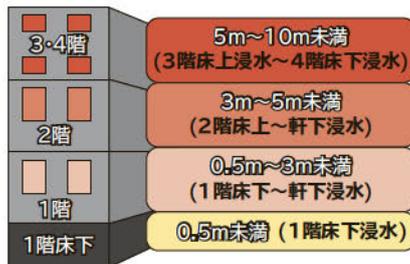


流速が早いため、木造家屋は倒壊するおそれがあります



地面が削られ家屋は建物ごと崩落するおそれがあります

②浸水深より居室は高い



③水がひくまで我慢でき、水・食糧などの備えが十分 (十分じゃないと...)

水、食糧、薬等の確保が困難になるほか、電気、ガス、水道、トイレ等の使用ができなくなるおそれがあります

※①家屋倒壊等反乱想定区域や③水がひくまでの時間(浸水継続時間)はハザードマップに記載がない場合がありますので、お住まいの市町村へお問い合わせください。

豪雨時の野外の移動は車も含め危険です。やむをえず車中泊する場合は、浸水しないよう周囲の状況等を十分に確認してください。

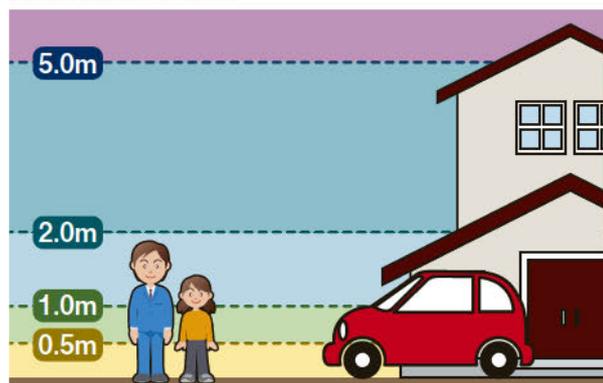
突然の災害には「垂直避難」

時間がない
場合、
高い所へ
避難を!!

夜間や急な降雨で避難路が分かりにくい、ひざ上まで浸水している、水の流が速いなど危険が切迫している場合は、無理に避難所に行くのではなく、自宅や隣接する建物などへの緊急避難「垂直避難」の方が安全な場合もあります。自宅2階や居住建物の高層階へ避難するなど、少しでも高く、頑丈な場所へ避難しましょう。状況に応じた避難行動を心がけましょう。



浸水深の目安



水深	水深の目安
5.0m以上	3階までつかる程度
2.0~5.0m未満	2階の軒下までつかる程度
1.0~2.0m未満	1階の軒下までつかる程度
0.5~1.0m未満	大人の腰までつかる程度
0~0.5m未満	大人の膝までつかる程度

水深が0.5mを超えると避難が非常に困難になりますので、早めに避難しましょう。

家族で避難経路を確認しておこう!

まずは自宅や学校、勤め先を地図に書き入れて、災害時に避難が必要な場所かどうかを確かめましょう。また、最寄りの避難場所と安全な避難経路を確認して書き入れましょう。



災害が起こったら

浸水深

浸水域の地面から高さまでのことを言い、洪水が起きる危険性を把握するときの目安になります。